



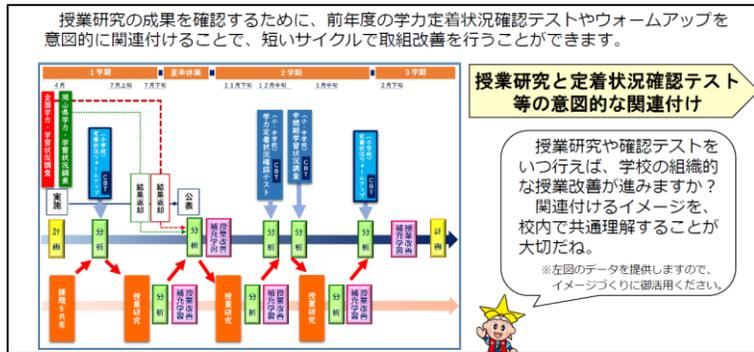
今年度の検証・改善サイクルを振り返り、 次年度につなげる取組を進めましょう！

©岡山県「ももっち」

中間期学習状況調査（以下、中間期調査）及び学力定着状況確認テスト（以下、確認テスト）の結果（11月末時点、実施校のみ）を12月中に市町村教育委員会へお知らせします。

中間期調査及び確認テストは、学校の組織的な授業改善を進めるにあたり、年度途中における取組状況を検証し、年度内の取組を改善し、次年度につなげることを目的としています。

今号では、中間期調査と確認テストを活用して検証・改善サイクルを回す例を紹介します。



「学ぶ力（学力＋意欲）：自分を高める力」の育成に向けたメッセージ（令和6年3月29日付）

中間期調査を活用した取組例

現状の把握とこれまでの取組を振り返る

4月



研究主任

「自ら考える子の育成」がAPの重点目標なので、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。」の項目に注目しましょう。

昨年度の全国調査の結果では、60%の子どもたちが肯定的回答をしていました。



A先生

共通実践として、総合の時間で学ぶ方法を子どもが選択できるように取り組めば、11月の中間期調査では肯定的回答が増えるのではないのでしょうか。



B先生

結果を確認し、今後の取組を決める

12月



A先生

中間期調査の結果を見ると、注目していた項目の肯定的割合が高くなっていますね。

学ぶ方法を選択していると自覚している子が増えたことはうれしいですね。ただ、選択はしていても、学びの深まりがあったかというところもあります。



B先生

では、総合の時間だけでなく、今後は教科の学習でも何ができるかを考えて、実践・共有してみましょう。



研究主任

確認テストを活用した取組例

現状の把握とこれまでの取組を振り返る

4月



学力向上担当

昨年度の調査結果で算数の「数と計算」領域に課題が見られたので、朝学習の時間に前学年の内容を復習できるように取り組みましょう。

「数と計算」領域の指導に焦点を当てて校内研究を進めましょう。研究授業では、活動を通して子どもが用語の意味を理解できるように工夫しましょう。



研究主任

単元テストの結果をもとに授業改善や個別指導を繰り返して、その成果を確認テストで検証しましょう。



A先生

結果を確認し、今後の取組を決める

12月



A先生

確認テストの結果を見ると、4月よりも多くの子どもが「数と計算」に関わる問題を解くことができていました。でも、まだ正答できない子どももいます。

今年度は確認テストを複数回受検できるようになっているので、家庭学習などで解き直しの機会を設定してみはどうですか。



学力向上担当

取組を継続して行うことで、誰一人取り残さないようにしていきますよ。年度の後半の取組の成果は、来年度の調査で検証できますね。



研究主任

中間期調査及び確認テストにおいて、あなたの学校はどこに注目しますか。学年や学校で結果を検証し、改善サイクルを回しましょう。

